

平成 23 年度第 1 回廃棄物減量等推進審議会議事録

期日：平成23年6月10日（金）

場所：多治見市役所4階会議室

出席委員：伊藤会長、谷口副会長、肥田委員、小木曾委員、坂崎委員、安藤委員
加藤委員、林委員、白石委員、坪井委員

欠席委員：近田委員、相原委員

事務局：佐藤環境文化部長、伊藤環境課長、熊谷三の倉センター所長
環境課市川課長代理、小木曾総括主査、伊藤総括主査、桂川主査

議題

- ① 家庭用廃食器のリサイクルについて
- ② 多治見市循環型社会システム構想A・B段階の総括（中間検証）について

1 開会挨拶

環境文化部長あいさつ

2 廃棄物減量等推進審議会について

設置規定等について説明後、規定に基づき会長・副会長を選出
（会長に伊藤秀章氏、副会長に谷口慶次氏）

議題①家庭用廃食器のリサイクルについて

（資料に基づき、平成22年度の実施状況とこれからの予定について説明）
（事務局）

回収を始めた12月は、かなり多くの陶磁器が排出され、回収用のかごが不足して慌てて追加するような対応も必要となることがあった。1月以降は量が減り、そうした状況ではなくなっている。回収後は大畑センターで、仕分作業などを行い、粗粉碎後、晴天時に処理業者へ運搬している。また、通常リサイクルというと、収入を得て事業が回っていくというイメージがあるが、これについては処理費を支払ってリサイクルが行われている。本日

配布した廃棄物処理の概要にも掲載があるように、一概にリサイクルといっても収益を得るものと、費用を支払って処理しているものがあり、陶磁器については、多治見市が陶磁器の街として、陶磁器に愛着を持ってもらうという観点からも処理費を支払って取り組んでおり、現在試行しているところである。

(委員)

回収後の仕分け作業はどのような作業をされているのですか。

(事務局)

リサイクルできないものなどが混ざって排出されることがあるので、そうしたものを選別除去する作業を主におこなっています。また、水濡れや汚れが付いている場合はふき取り作業をしています。選別については、市民の方には判断の難しいものもあり、誤って排出されることはやむを得ない部分もあるので市の方で最終的な選別を行っています。

(委員)

資源というのは、回収してそのまま再利用されるのですか。それとも形を変えて再生されるのですか。

(事務局)

最終的に利用するときには、粉々にして一定割合を陶土に混ぜて食器に再生します。

(委員)

出されたものをそのまま再利用するものだと思っていました。

(事務局)

リユースという形で、再利用する方法もありますが、常時店を開く形で引き取ってもらうことは難しいため、集めた食器を全部そうした形で処理することは難しいと考えます。ただし、ワンセットとして箱に入ったものなどは、三の倉センターで年に1回行っているリサイクルデパートで取り扱うなどの対応もおこなっています。

(委員)

昔は、葬式など、家庭で一度にたくさんの食器を使う機会がありましたが、今はそういうこともなくなりました。それでもなんとなく捨てられずに押し入れの中に持っているという人は結構いると思います。

(委員)

食器と食器でないものという分け方は分かりにくいのではないのでしょうか。陶器と磁器という形で分けて回収したら分かりやすいのではないですか。

(委員)

市民の方にあまり細かいことを言っても分かりにくく、回収ができにくいと思われれます。陶器を売る立場としては、食器に再生する原料として回収するので、茶碗など口に入る関係のものに限定されています。

(会長)

市民への分かりやすい説明と、やる気をだしてもらい、モチベーションをあげることに重きをおいて試行をおこなっているということですね。

(委員)

市民には分かりやすい説明をしてもらって、難しいところは市や業者さんで判断してもらうのがやはりいいと思います。

(委員)

資料の冒頭に、陶磁器回収の目的について「多治見市としてごみの減量と再資源化を推進する」とありますが、もう少し具体的に分かりやすく説明をされた方が市民には伝わりやすいのではないのでしょうか。子どもにもわかるような表現で伝えることが必要かと思えます。

(委員)

リサイクルについて、「お金をかけてまでおこなう必要はないのではないか」という声も聞くことがあります。子どもにはなおさら分かりにくいかもしれませんね。

(委員)

三の倉センターでゴミを処理する燃料やその費用を考えると、子どもにも分かりやすいかもしれません。私も子どもたちと接する機会が多くありますが、自分たちが出したゴミは石油燃料という資源を使って処理していて、それはとても費用がかかるんだから、ゴミはなるべく出さないようにすることが大前提だといつも話しています。例えば、先ほど意見のあった説明の文章の中に焼却費用など具体的な数字を出してもいいのではないのでしょうか。

(会長)

いろいろなご意見をいただきましたが、いずれにしても環境教育と関連付けることは重要なことだと思います。説明についてはまた、事務局の方で分かりやすい表現など検討していただきたいと思います。今後の進め方について事務局から何かありますか。

(事務局)

家庭用の廃食器の回収という中で、灰皿などが多く排出されている状況があります。食器に再生するので、口に入るものを回収しているということを、しっかりPRしていくように考えていきたいと思いますので、また次回そのあたりについても報告したいと思います。

(会長)

それでは、今後も継続して検討していくということで、次回また報告していただきますようお願いいたします。

議題②多治見市循環型社会システム構想A・B段階の総括（中間検証）について

(資料に基づき、昨年度おこなった中間検証と家庭系ごみの資源化率目標の見直しについ

て説明)

(事務局)

循環型社会システム構想とは、多治見市として埋め立て処分場の残存容量が少なくなる等、廃棄物処理の将来的な不安が高まる中で廃棄物のハイレベルな再資源化を目指して考えられた仕組みです。当時はRDF施設の導入や草木類のリサイクルなど、より細かいごみの分別によりリサイクル率を上げていくことで、最終的には埋め立て処分を無くするという構想を立てました。しかし財政的な問題等からも、当初の構想を実現することが難しい面も出てきたことから、現実的な目標値として目標資源化率を見直すこととし、前回の審議会で家庭ごみの当面の目標資源化率を40%とすることとしました。また、具体的な方策としては、例えば、可燃ごみにはまだ多くの紙類が含まれているため、それを分別して回収することや、厨芥類の回収などをすすめることで目標を達成できないかというご意見をいただきました。また、事業系ごみについても同様に現実的な目標値への見直しについて議論が必要と考えます。前回の審議会の中では、事業系ごみについての検討はあまりおこなっていないため、次回以降の審議会の中でご意見をいただきたいと考えています。

(会長)

この議論については、次回以降進めていくこととなります。今日は、昨年度までどういったことを検討してきたかについてご説明いただきました。家庭系のごみについては34%から40%に引き上げるということで具体的な数字が出されていますので、これをいかに実施していくかということになります。また、もうひとつ今年度の重要な事項として、事業系ごみの資源化率についても、これまでの総括を踏まえて今後どう進めていくかを具体的に議論していくという事になります。次回へつなげるという意味でもご意見のある方はここで是非お願いします。

(委員)

確認ですが、ここでは数値目標を出すというよりは、数値を達成するための色々な施策を考えていくという認識でよいですか。

(事務局)

結果として数値になるということはあると思いますが、是非そうした施策のアイデアもいただければありがたいです。

(委員)

資料について細かいことですが、「民間業者」という表現は「民間企業」の方がよいと思います。

(委員)

前回の審議会では、事業系ごみの総量などが把握していないということで議論が止まってしまったという経緯があります。また、組成調査を実施するという話もあったかと思いますので、それを踏まえて次回の議論に進んでほしいと思います。

(会長)

前回との関連で、ただいまご意見いただいた点についても事務局では確認しておいてください。その他事務局から連絡事項等がありますか。

(事務局)

次回開催は8月末から9月頃に予定。事前に日程調整をさせていただく旨を連絡して終了

15:00 閉会